

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**埼玉県 川島町立西中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

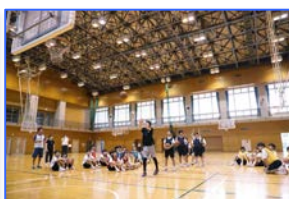
まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実 施 内 容

■期 日 : 2019年12月05日 (木)

■ク ラ ス : 2年1組 (28名)

■オリンピアン : 伏見 知何子 先生 (スキー/スノーボード) 【出場オリンピック/トリノ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



## 2. 準備体操



・今日は運動と座学の2時間を通じてオリンピックについて考えていくこと、自身の経験を通じてオリンピックの価値を伝えていくと授業の目的を確認。運動の時間は体を動かし、楽しみながらオリンピックバリューを感じてもらいたいと伝え、準備体操に移る。

## 3. 主運動



・8の字跳びを実施。

## 4. まとめ



・冒頭に説明したオリンピックバリューが運動の取り組みとどう関係しているのかを考えてほしい。次の座学の時間では、自身の経験話したい、また皆が思っているオリンピックのイメージを聞きたいと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・オリンピックシンボルのイメージを質問し、使用されている6色でほぼ全ての国の国旗を描くことができること。近代オリンピックの父クーベルタン の考えについて、人々が人生をより良く生きる上で大切な3つの価値観をオリンピックバリューで表した等と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：運動の時間を振り返り、工夫したことや頑張ったことが、どのオリンピックバリューに当てはまるか考えてみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）

「結果を残す」「回し手を変える」(エクセレンス)

「声掛け」「跳ぶのが苦手な人を間に入れてあげる」(フレンドシップ)

「失敗しても責めない」「前向きな言葉をかける」(リスペクト)

4. まとめ



・オリンピックやオリンピックバリューはアスリートだけのものではなく、皆の日常生活でも活かせる価値観であることが分かったのではないかと、最後までしっかり話を聞いてくれたことに対し、お礼を伝え、授業終了。

# 実施内容

■期 日：2019年12月05日（木）

■ク ラ ス：2年2組（27名）、2年3組（28名）

■オリンピアン：佐藤 真太郎 先生（ボブスレー）【出場オリンピック/ソチ大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



・今日はオリンピックの魅力や価値を伝えていきたいと目的を確認。オリンピックシンボルやオリンピックバリューについて説明。運動の時間はしっかり話を聞き、ルールを守りながら工夫して取り組もうと伝え、準備体操に移る。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



・ボール回しゲームを実施。



## 4. まとめ



・最後のゲームで結果が出たことに対し、皆で話し合いながら協力、共有でき、ワンチームになれたことが成績に直結する。皆で話し合って決めていくことの大切さを頭の中に入れておいてほしいと話し、授業終了。





■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・オリンピックについて学んでいきたいと授業の目的を確認し、クーベルタンやオリンピックシンボル等について、またスライドや映像を見せながら、競技の特徴や歴史について説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：クラスを良くするために自分ができることを書き出し、グループで共有しまとめよう。  
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）  
 「挨拶をしっかりする」「積極的にやる」(エクセレンス)  
 「協力し合う」「声をかける」「友達と仲良くする」(フレンドシップ)  
 「お互いの良さを認め合う」「困っている人を助ける」「人の話をよく聞く」(リスペクト)

4. まとめ



・グループワークで話し合ったことを実践することでクラスのチームワークが高まる。そして皆がすべきことは、時間を掛けて将来なりたい姿を想像し、自分の夢に向かっていくこと。ただし、自分ばかり目を向けていると、周りからの協力を得ることができず、必ず苦しくなる時が訪れる。夢の実現のためには利他の精神が必要であり、他人を生かすことでおのずと自分に返ってくる。毎日の積み重ねが将来につながる。グループワークで話し合ったことを忘れずに夢に向かって行ってほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真  
2年1組



2年2組



■ 集合写真  
2年3組



■ 記念品贈呈  
2年1組



2年2組



2年3組



■ 修了証贈呈

